



はじめに

桐生市内に残るノコギリ屋根工場群は約200棟以上と言われ、全国一の数を誇る。桐生の織物産業の繁栄を生み出した、独自の構造を持つこの工場は、桐生らしい風景を形成する地域固有の資源でもある。しかし、産業構造の転換等により、工場の本来の機能を喪失し、解体されるケースは後を絶たない。

産業資産であり、近代化遺産としても位置付けられるノコギリ屋根工場は、かつて織物のまち桐生の繁栄をもたらし、現在はその役目を終えたかのように見られているが、実は潜在的なパワーに満ちた建物であると考えている。

ノコギリ屋根工場を保存し、かつ再生させるため、多角的な視点から活用スタイルを提案・実践することで、他の地域にはないオンリーワンの魅力づくりにより、かつての産業集積を新たなまちづくり(国際的な文化・芸術・教育・観光・情報等)の核とすることは出来ないか。桐生の都市再生につなげることはできないか。桐生商工会議所やファッションタウン桐生推進協議会がここ数年来、追いかけてきた課題であった。

それには、ノコギリ屋根工場の操業の有無、現在の活用や所有形態などの実態の把握が不可欠であったが、このたび都市再生モデル調査事業として、残存するノコギリ屋根工場の全件調査を行い、ここに報告書としてまとめることができた。

ノコギリ屋根工場の再生活用は、市民の誇りと自信につながる大きな潮流を生み出し、地域再生につながるものになると確信している。国際的なデザイナー・アーティストたちの工房としての活用、芸術文化産業及び観光の場への変換など桐生というまちが「創造性」を取り戻すための核になるものと思える。

本報告書では、実態調査を中心にノコギリ屋根の歴史的な成り立ちや現在の役割、問題点、新しい息吹を感じさせる活用例など多面的に検証したうえで、都市再生に向けて、①文化・芸術活動の創造の場としての活用。②地場産業の技術伝承の新たな苗床に。③産業観光の核としての活用—の3つの提言を行った。

今回の調査により、今後の活動が具体化し、産業遺産を活用した都市再生への加速度が増すものと期待している。